



インタビュー

釧路開発建設部長

榊原 政之氏

今回の釧路沖地震で榊原政之（さかきばら・まさゆき）部長をはじめ釧路開発職員は、災害状況の把握と復旧に向けての対策に文字通り座の暖まる暇のないほど忙しい毎日を送ってきた。開建内の各課は平成5年度事業の執行を控えていたこともあってまさに昼夜の区別なく、連日徹夜作業でしのいできたという。その甲斐あって、道路関係においては緊急復旧工事も順調に進み、ここにきてようやく落ち着きを取り戻しつつある。そんなあわただしい合間を縫って、同部長に災害復旧の様子と見通しや新年度の主な事業などについて話を聞いた。

## 地域活性化のために先導的役割を

—— まず釧路沖地震の災害復旧の現状と見通しについて伺いたい。

榊原 釧路は比較的地震の多い所ですが、今回ほどの地震は私としても初めての経験で、大変驚きまし

た。

当日は中川昭一代議士の新年交礼会が午後6時頃に終わり、帰宅してほっとしているところでした。地震のあと気づいてみると、石油ストー

# 豊かで活力と魅力あふれる釧路地域づくりに邁進

## 釧路沖地震の災害復旧と平成5年度事業へ向けて多忙な毎日送る

ブの上の菓缶がひっくり返り、床が水浸しになっており、食器が食器棚から落ちてバラバラになり、冷蔵庫のドアが開いて中の食料品が散乱していましたし、奥の部屋ではタンスが倒れているという状況でした。

そこで早速、建設部に駆けつけてこの部屋（部長室）に災害対策本部を設置しましたが、建設部の庁舎内も大混乱で、窓ガラスは割れ、各執務室ではキャビネが倒れ、書類が散乱。庁舎内は停電で真っ暗闇、この部屋だけがかりうじて予備発電で照明が確保されていたのです。また、多重無線の機器類も損傷を受けており、NTT電話も混乱していました。そんな中で、集まってきた職員と共に活動を開始したのです。

災害対策本部の第一の課題は、翌日の16日が大学入試センターの試験日でしたので、国道の被害状況を把握し、翌朝までに交通を確保するということでした。早速、道路パトロールが開始され、迂回路の確保に努め、業界の皆様にも真夜中の被害箇所のおかきで試験には支障がなく、職員一同ほっとしました。

今回の地震によって釧路開建が所管する施設は、当部始まって以来最大の被害を受けました。釧路開建の平成4年度事業予算が約360億円ですが、今の段階で災害復旧費が270

億円と予想していますから、その大きさがわかると思います。一般国道では、大規模なものだけみると11路線のうち6路線13箇所被害があり、その中で3箇所全面交通止めをする状態でしたが、その後、施工業者の昼夜兼行の努力で、45日までに3箇所とも通行可能になりました。現在なお、全面復旧に向けて鋭意工事を進めており、年度内には完了する予定です。

河川の被害は特に大きく、釧路川、音別川、和天別川、標津川の4河川を合わせて160億円に及ぶ被害を受けましたが、現在、融雪出水時期に備え、応急処置が必要な箇所については緊急復旧工事を行っており、引き続き本復旧工事を実施して平成5年度内には完了させたいと思います。特に釧路川遊水地築堤の復旧については、釧路湿原が今年6月のラムサール条約締結国会議の舞台となるため、自然環境に配慮しつつ、施工していくつもりです。

農業農村整備事業では、一部農道の陥没、崩壊、また営農用水施設が被災し、断水などの被害が発生しましたが、当面の営農に支障のないように1月末には応急復旧工事も完了しました。

港湾、漁港については、特に釧路港で大きな被害を受けましたが、現在、応急復旧工事を行っており、本

復旧工事は新年度からの予定です。釧路空港は、被害が軽微で空港の運用には支障がありませんでした。

—— それでは、新年度の主な事業について、道路・街路事業から聞かせて下さい。

榊原 平成5年度の主な道路事業としては、まず釧路新道の着手があります。これは一般国道38号が広域幹線道路、地域生活道路として両機能を兼ねていることから、年々交通量が増加し、市街地における慢性的な交通渋滞、沿道環境の悪化、交通事故の増加が生じているため、その解消を図るものです。

次に、釧路キャブを完成させます。これは今年6月に釧路市で開催されるラムサール条約締結国会議に向けて、電線類などの地中化、都市災害の防止、安全な通行空間の確保、都市景観の向上を目的としたものです。また、中標津バイパスを完成させて供用を開始します。これは中標津市街地の交通量の増加に伴う交通環境、沿道環境の悪化を解消するため、平成元年度から施工しているもので、この完成により交通機能分担の適正化、土地利用の高度化の促進、都市街路との有機的なネットワークの確立が図られます。

—— 河川・砂防・ダムいわゆる治水事業は？

榊原 治水事業につきましては、

平成5年度は第8次5箇年計画の2年目に当たり、当面の整備目標が戦後最大洪水流量規模に対する災害防止ですから、この達成にむけて事業を計画的に進めていきます。

一級河川釧路川では、下流域の釧路市と釧路町を洪水から守るため、釧路湿原の持つ自然の調節機能を利用した釧路川遊水地事業を促進するほか、中流域の標茶町を守る標茶左岸築堤、上流域の弟子屈町の河畔緑地保護のための護岸を実施。指定河川音別川では、堤防強化のための護岸、川向地区の無堤の解消を図る築堤を実施するほか、和天別川の流下能力確保のための掘削及び水衝部の護岸を実施します。また、標津川においては桜づつみモデル事業を推進するとともに、流下能力確保のための掘削を行い、治水安全度の向上を図ります。

—— 空港・港湾・漁港事業については？

榊原 空港は、当管内に釧路空港があり、昨年7月の大阪直行便の運航開始もあって、乗降客数も80万人を突破する状況ですが、特に利用客の多い5月から7月の就航率が海霧の発生により著しく低く、利用客には不便をかけています。これらことから平成4年度に続いて、新年度は計器着陸システムの性能向上を図るため、高盛土工（用地造成）を本